

つくばのサイクリング界隈の今

北条地区にお住いの皆様、こんにちは。私はつくば市平沢にあります社会福祉法人筑峯学園の松島寿樹と申します。大阪府で生まれ育ちましたが、2000年につくば市民になり早20数年、すっかりつくばに魅了されたひとりで、2006年ごろに北条へ、現在は平沢で生活をしております。

私は自転車のまちつくば推進委員会の市民委員を務めており、僭越ではございますがこの度「北条新聞」に、つくばのサイクリング界隈の今、を寄稿させていただきます。



平沢官衙遺跡で開催された『PEDAL DAY GO Mt. TSUKUBA』

北条新聞を手にとった皆さまの多くが通われたであろう旧筑波東中学校グラウンドには新たに自転車競技の「つくば(BMX)サイクルモトクロ」コースを整備し、校舎の一部を筑波山地域ジオパークの中核拠点施設とサイクリング拠点として活用することになり工事が始まり、近隣では土浦駅・岩瀬駅までを結ぶ約40kmに渡る、つくば霞ヶ浦りんりんロード、が再整備され、休憩所やトイレ、看板設置が進み、その他の一般道路にも自転車専用通行帯の整備もされています。これらは主に健康増進や交流人口の増加を目的としています。

これらの施策の成果もあり筑波山麓地域には、つくば市内はもちろん県外からもロードバイクやクロスバイクに乗るサイクリストが多く訪れる人気スポットとなりました。北条地区の皆様の中にも眺望やグルメスポットを目的にしてサイクリングを始めたという方もいらっしゃるかもしれません。

以前は自転車(いわゆるガクチャリ)で登下校する近隣の中高生の姿を見るくらいだった北条地区にもカジュアルなウェアに身を包んだサイクリストを多く見かけるようになりました。北条地区をはじめ筑波山麓地域を訪れるサイクリストが増えたことは喜ばしい反面、自動車や歩行者との交通トラブルが起きることも増えています。自転車を活用し、サイクリングを推進



最後は、やはり目配り気配り心配りが大切なのではないのでしょうか。「自動車(自転車)歩行者」が来ているかな?」「お先にどうぞ!」「ありがとう!」と心がけや気遣いで安心して気持ちよく生活が出来る地域でありたいですね。

灯台下暗し、普段生活している地域にも未知の世界がいつぱい隠れているかもしれません。サイクリングを通して、自然の音や香り、四季の移ろいを感じながら筑波山麓地域の魅力を再発見してみませんか。もちろん交通安全に気を付けて。

最後までお付き合いありがとうございました。拙筆、なにとぞご容赦ください。

北条新聞のタイトル背景

今年度の北条新聞のタイトルの背景に使用されている模様は、北条にあった染物屋さんで使用されていた型紙をスキャンしたものです。現在は染織工房『ぶにの家』さんが維持管理をしてくださっています。今回、ご厚意で貸していただきました。ぶにの家 HP : <https://www.puninoie.com/>

『筑波山麓秋祭り2022』が開催されました

北条街づくり振興会

10月29日から11月6日までの土・日・祝日の5日間、3年ぶりに筑波山麓秋祭りが開催されました。待ちに待った開催に北条をはじめ山麓地域には地元以外、県外からも多くのお客様が訪れ、秋晴れの下、多くのイベントで大変賑わいを見せました。

北条では当会主催の、秋の北条市、が11月5日(土)に行われました。15年前にスタートし今回で48回目となる北条市、途中コロナ禍や悪天候による中止はありましたが、年4回、毎回趣向を凝らしながら続けて



連日賑わった、北条ふれあい館



秋の北条市&まちなか運動会

いる恒例のイベントです。商店街は歩行者天国となり、お客様は特設屋台のお店で思い思いにお買物を楽しみました。そして勇壮な和太鼓演奏の後は「まちなか運動会」です。およそ6歳から70歳代の1チーム5名、10チームの参加者が紅白玉入れや大玉ころがしなど3つの競技に取り組みました。当日の参加申込みも多く、会場はさんや、さんやの喝采で賑わい、また紅白の大玉をころがすチビ子の必死

さて最近、つくば市をはじめ茨城県の市町村においてサイクリングを推進する取り組みを積極的に進めている事をご存知の方も多くいらっしゃるのではないかと存じます。サイクリングルートやマップ、レンタサイクル、サポートステーション(空気入れや簡易工具のレンタル)などの整備が年々進んでいます。11月には平沢官衙遺跡でもイベントが行われました。また、

他のイベントでは矢中の杜は期間中、所蔵の「屏風絵展」が開催され、華麗かつその迫力に皆が圧倒され感動を呼ぶ企画展になりました。

また、今回から「Tepo」と川田邸が秋祭りに初参加となり北条の魅力発信に貢献してくれる新たな存在になってくれたことは嬉しい限りです。そもそもこの秋祭りは2008年(平成20年)に茨城県で開催された国民文化祭に参加のため、山麓5地区(筑波・田井・北条・平沢・小田)で活動する団体によって組織が結成され、始められたイベントです。



矢中の杜 特別公開

その際、北条は当会が中心となり、活動に参加の筑波大の先生や学生とともに多くのイベントを開催しました。その1つに宮清大蔵コンサートがあります。元穀物蔵を改修し、コンサート等を開催これ以降、ウインフィルやベルリンフィルなどの著名な演奏家を招いたコンサートが毎年継続されています。また、北条米スクリームもこの時に発売デビューしました。

時は移ろい14年が過ぎました。今では参加する団体も増え、この時期になくはならない地域イベントとして定着しています。つくば市からの支援も継続、充実した内容になっています。今後も関係者が一体となり、より魅力あるイベントとして発展していくことを願っています。

北条街づくり振興会のホームページが新しくなりました

<https://tsukuba-hojo.jp/>



北条新聞を手にとった皆さまの多くが通られたであろう旧筑波東中学校グラウンドには新たに自転車競技の「つくば(BMX)サイクルモトクロ」コースを整備し、校舎の一部を筑波山地域ジオパークの中核拠点施設とサイクリング拠点として活用することになり工事が始まり、近隣では土浦駅・岩瀬駅までを結ぶ約40kmに渡る、つくば霞ヶ浦りんりんロード、が再整備され、休憩所やトイレ、看板設置が進み、その他の一般道路にも自転車専用通行帯の整備もされています。これらは主に健康増進や交流人口の増加を目的としています。

『矢中の杜』の思い出を教えてください

NPO法人、矢中の杜、の守り人 事務局長 中村泰子

こんにちは。今年度矢中の杜では、普段は展示していない収蔵道具などを展示しています。例えば昔の蚊取機やお弁当箱など、邸宅に残る昭和の道具類。ちよっと懐かしかったり、珍しかったりする道具を前に、来場する方のお話もはずみ、新しい発見があつて、興奮しきります。

さて、北条地区の皆様!矢中の杜(旧矢中家住宅)の思い出をお持ちではないですか?その思い出をぜひ私たちに教えていただけませんか。



矢中の杜はご存知の通り、北条出身の実業家矢中龍次郎氏によって建てられた昭和の邸宅です。カフェポستنさんのお向かいで、奥は旧北条小学校正門へ続くよい子の道にも接しています。私たち、矢中の杜、の守り人はその邸宅を保存活用し、矢中の杜として再生させています。

これまでも、来場いただいた方や街で出会った方から、さまざまな思い出を伺っています。「塀からのぞいて怒られた!」「お饅頭もらった!」「実は入ったことがある!」「龍次郎さんを見かけた!」「ゆかりの人を知っている!」「謎の場所で怖かった!」「クリーン作戦で草取りした!」などなど。

皆さんの思い出で、邸宅が歩んできた歴史がより身近になり、生き生きとさせ、理解も深まると思うのです。地域の文化財としてこの先長く保存していくためにも、非常に重要なことです。

矢中の杜でお聞かせいただいてもいいですし、お手紙やメールでも。

ちよっとしたことも大歓迎です。ぜひ教えてください!

【邸宅公開】

毎週土曜日 11時~16時
第2,4日曜日 13時~16時
お一人様 500円
(中学生以下無料)

AMAZING.YANAKA.NO.MORI

ホームページ



みんなの管校日。HOJO IN TSUKUBA

ホームページ <https://minnano-toukoubi.localinfo.jp>

メール QRコード minnano.toukoubi298@gmail.com

Youtube Facebook Twitter

ご意見・ご要望はメールまたは、お手紙で 〒300-3292 茨城県つくば市筑穂 1-10-4 つくば市大穂庁舎 2F 北条街づくり振興会事務局 まで

発行:北条街づくり振興会青年部会
発行日:2022年12月4日

古写真街歩き



現在、つくば市内では色々な街歩きイベントが開催されています。従来のポイントまわってスタンプを集めるスタンラリーや、スマートフォンを使った電子スタンプラリー、チエックポイントを回ってポイント集めをするロケイニングなど、地域の特性に合わせた街歩きが行われています。



青年部会でも今年は街歩きに力を入れようと、古写真街歩きを企画し、SNSを中心に参加者を募集、6月25日に約20名の参加者にお集まりいただき実施しました。



北条の歴史と言えば「北条のむかひなし」でもおなじみの井坂敦実先生に講師をお願いし、古写真をスクリーンに映しながら説明していただき、その後実際に古写真が撮影された場所を歩いて、街がどのように変わったのかみて回りました。古写真の量も多く、井坂先生の紹介したいものも多いうことで今回は北条の東側半分、新田く大池く新町く八坂神社く旧北条駅くつくば道道標く旧北条小までの解説になりました。

古写真は井坂先生の集められた、古いものは明治末、新しいもので昭和50年代のものを使用しました。生活していると町はさほど変化していると感じられないものですが、百年以上の時間を古写真という形でみると「本当に同じ街なのだろうか？」とビックリします。イベントでも説明していただいた古写真をご紹介いたします。



つくば道道標の今昔

『つくばクエスト』

RPG 風街歩き

つくばクエスト実行委員会

『つくばクエスト』は筑波大学生が企画・運営している街歩きイベントで、「筑波大学生を街の主人公」というコンセプトのもと筑波大学生と周辺市街地をつなげていく活動です。対象は筑波大学生となっております、2022年3月27日に第1回、9月25日に第2回を開催しました。



北条の歴史を基にした架空のストーリーを作り、参加者はギルドという問題解決屋の冒険者の一員になって、北条を舞台に起こる様々な問題を解決していきます。今回は過去に失われた儀式の復活を目指しながら、多気太郎墓や北条大池、八坂神社などを回り北条の歴史や文化を学びました。

北条大池

外来生物駆除大作戦！

公益社団法人日本技術士会茨城県支部による『つくば市北条大池の特定外来生物カミミガメ・侵略的外来生物ミシシビアカミミガメ駆除大作戦』が8月に行われました。



大池の3つの池に、日光浴場1か所、カニが15匹、異が15か所仕掛けられ、翌日罷を回収する方法で8月上旬と下旬に2回行われました。今回の作戦ではミシシビアカミミガメが17匹、クサガメが35匹、合計52匹を捕獲することができました。現在、日本全国で外来生物の増殖が問題になっています。生き物が減ること自然環境の豊かさを表すため良いことのように感じますが、強い生き物が増えすぎることバランスが崩れてしまい在来種がなくなってしまうことで生き物の多様性が失われてしま



昭和17年の北条駅前

金属供出に伴い汽車で運ぶため北条駅前に、近隣のお寺の梵鐘が集められた。中には豊里から運ばれてきたものもあり、鉄道の通る北条が交通の要所となっていたことがわかる。



明治40年北条尋常小学校

北条米を天皇陛下に献上するため、小学生たちが箸を使って米粒を選別している。子どもたちの口元にはマスクがつけられている。大塚家所蔵



大正時代の北条尋常小学校運動会

今から約100年前の北条小学校。現在の北条保育所のところにあった。そのころすでに運動会がさかんに催されていた。観客が多いもおどろきである。後ろに見える城山は段々畑になっており木が少ない。



ギルドの長として、名演技を披露しました。つくばクエストの魅力は、なんといっても従来のスポットを指定された街歩きイベントと違い、ストーリーをもとに自分達で街の魅力を発見できること。イベント後のアンケートでは「参加者から、とても穏やかな街でまた来たいと思った」「普段行くことのないつくば市北条の魅力を知ることができた上に、他学年や他学類などの普段関わることもないような人たちと交流することができた」「初めは普通の田舎街だと思ったが、イベントを経ていくうちにどんどん魅力的にうつるようになった」といった声をいただきました。今後とも、筑波大学生に北条の魅力伝えていきたいと思



まうのが問題だとされています。外来生物の問題はブラックバスやウシガエルといった在来種を捕食すること他に、ミシシビアカミミガメやアメリカザリガニといった水生植物に影響を与えることで他の水生植物の生息環境を失わせるもの、クサガメのように在来種のイシガメと交雑することで遺伝子汚染をおこしてしまふものと生き物の種類によって影響は様々です。今回、駆除対象として捕獲された生物のミシシビアカミミガメは、お祭りなどの屋台でミドリガメとして売られたものが放流され定着したものと考えられています。一方、クサガメは、以前は在来種と考えられていましたが、現在では江戸時代以降に朝鮮半島や中国からもちこまれ、ペットとして全国に広がったのではないかと



1つの種類の生き物が与える環境の変化は大きく、水生植物が失われるだけでメダカなどの魚だけでなく、トンボやゲンゴロウといった昆虫、カエルなど様々な生物に影響を与えるそうです。

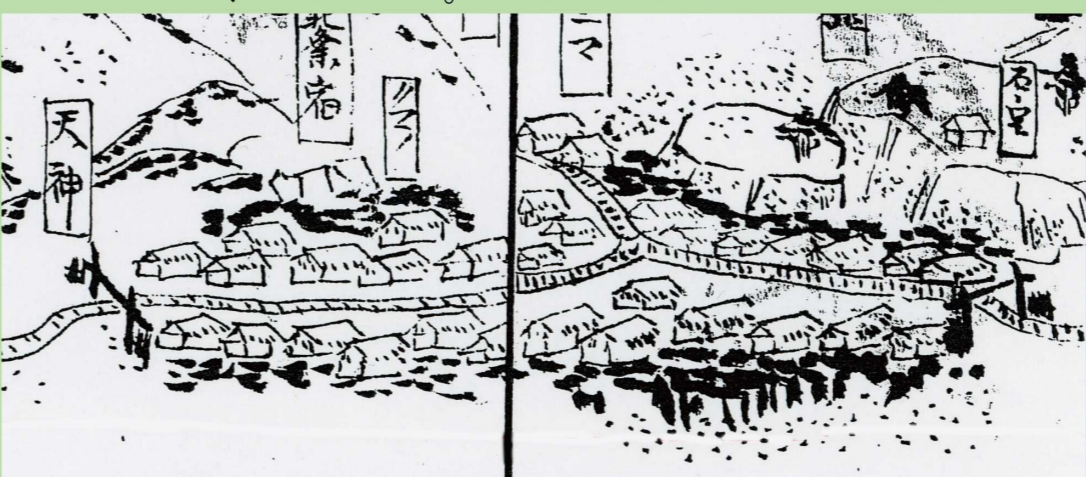
北条のむかひなし

第五回 北条町のむかひなし



天保九年(1838)の北条図。『天保巡見日記』国立公文書館蔵

このシリーズは郷土史家、井坂敦實さんによる北条の歴史をたどるおはなしです。



北条宿図。十九世紀前期頃。東西の街はずれに木戸門があることに注意。『筑波山縁起』国立国会図書館蔵

前回は触れた北条横町の三基の板碑は、これを証明しているかと思う(実はこのことは北条の鎮守八坂神社の建立にも関係するのだが、それについては次の機会にのべることにする)。中町は寛永十年(一六三三)に造立した。内町と新町はそれから五年後に立てた。この差はなぜかといえば、中町は区画整理が終わって、各自の家の普請(ふしん)がすむと、ただちに商業活動に入ったのではない。それで中町はみるみる豊かになっ

たが、内町と新町は農家が多く、一歩立ちおくれた。それがこの五年の差となった。寛永年間の北条の商業の状況は知られない。それから約三十年後の山木神社の『普請帳』(山木、日下部勝彦氏所蔵文書)から推測するばかりである。山木神社は大字山木に在る中世以来の古社である。寛文六年(一六六六)から七年にかけて、今の本殿が建てられた。その時の『普請帳』に大工衆のために使った諸費用がくわしく記載されている。その購入品目を列挙すると、酒・肴(さかな)・たばこ・豆腐・こんにやく・魚などがあり、ほかに麻、紙・扇・

絵ノ具・釘・ござ・むしろ・ぞうりがあ

どれも草ぶき(萱や麦わら)にみえる。この時土蔵造りの店蔵が建ち並ぶ街並みはまだできていない。ではいつごろから土蔵造りの店屋ができたのか。これについては『井上丹誠記』(井上善兵衛家文書『筑波町史料集第七篇一二七ページ以下』)が参考になる。草葺きの家々が軒を連ねるといことは、いったん火事になると、隣近所に延焼するおそれがある。『丹誠記』によれば、天明五年(一七八五)六月内町に大火があつて、一軒残らず焼失した。これに類する大火はしばしばあつた。そこで内町では愛宕神社(京都府)を、中町は秋葉神社(静岡県、御神像は宝安寺に安置)を勧請(かんじょう)し、新町では三峯神社(埼玉県)の神札をもらいうけて、各戸に配布したという。どの神社も火防(ひぶせ)の神として有名である。井上家では文化八年(一八一二)一月に、近くの家から出火して、店が焼けてしまった。これにこりて、翌年に土蔵造りの店を構えることにした。これが北条に出現した最初の土蔵店であつたらう。おもしろいのは



愛宕神社(熊野神社の東隣)



市神の石祠(中久木家隣)



八坂神社に掛けられた三峯神社の木札

この時瓦を「寅さん」で有名な柴又から運んできたことである。瓦の需要がないところには瓦屋はない。弘化四年(一八四七)には宮清の店蔵ができた。北条に土蔵店が立ち並ぶ景観は、こうして幕末から明治にかけてしだいに形成されたのであろう。それにともなつて、大形や神郡で瓦製造が始まった。なお北条において江戸時代に市場が開かれていた跡は、今も現存する。それが東は中久木家屋敷隣の市神様の石祠であり、西は佐藤タクシー前の石祠である。八坂神社を中心に東西約三百メートルにわたつて、市場が開かれていた証拠である。